都立中央ろう学校　授業改善推進プラン

R5.9.29

教育目標

聴覚に障害がある生徒に対し、６年間の中高一貫教育を通じて、大学等への進学に対応できる確かな学力と調和のとれた人間関係を育み、社会に貢献できる人材を目指す。

学校経営方針（授業改善に関わる要点）

聴覚に障害のある生徒の指導のため、全教員が聴覚障害教育の専門性を高め、ＩＣＴ等を活用した授業の推進、手話力の向上に努め、情報保障に配慮した教育を行う。そのため、全国学力・学習状況調査や外部模擬試験、各種検定試験等の客観的なデータを活用し、授業改善に努める。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫（目標）	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
①大学入試に対応できる教育課程を設定。 ②自立の精神を養うために、自立活動の時間（各学年１単位）を設置。 ③朝の学びの時間（毎朝１５分、補習、中高）の実施。	①学習グループに応じた年間指導計画の作成及び授業展開を行い、生徒の学力を高める。 ②夏期講習（中高）と土曜講座（高のみ）の実施。 ③各種検定の受検を促す。 ④GiGA スクール構想に基づき、タブレット端末の使用や統合型学習支援サービスの活用をする。	①４月、９月に外部学力テストの実施。テスト結果を基に学習グループ編成を行う。 ②年３回の外部実力テストの実施（中学部）。 ③高等部は河合模試を実施し、これらの結果を基に進路指導を行う。 ④生徒による授業評価アンケート(年２回)実施。	①予備校での教員研修プログラムの参加(5 教科)。 ②高等学校、中等教育学校の指導教諭の授業見学（５教科の教員は年１回以上)。 ③手話講習会の実施。 ④各教科で研究テーマを立て研究授業を実施。 ⑤研究部による校内研究会の実施。	①家庭学習の充実を図るため週末課題を実施。 ②中：放課後のサポートスタディに退職教員ボランティア及び近隣大学学生による支援。 ③その他、保護者や地域社会との連携（保護者会後の教科懇談会など)。 ④大学に向けての支援体制の充実

具体的な取り組み

【中学部】 朝の学びの時間：１週間ごとに主に英、数、国３教科が交代で行う。 自立活動：コミュニケーションの基礎能力向上、人間関係を築くのに必要な態度を学ぶ、進路の意識を高める。 １人一台タブレット端末で、プレゼンテーションアプリ等を使用している。 【高等部】 国：国語表現にて大学受験に向けた小論文対策を実施。国語演習にて大学受験に向けた対策を実施。 数：高３では、数学ⅠⅡAB の発展演習と数学Ⅲの選択ができる。 文系・総合系は高３から数学Ｂの選択可。 英：コミュニケーション英語Ⅲまで必修である。 社：大学受験に必要となる全科目の履修が可能 理：５年から物理基礎と科学と人間生活が選択。６年から物理基礎選択可 朝の学びの時間：自学を行う 自立活動：コミュニケーションの基礎能力向上、人間関係を築くのに必要な態度を学ぶ、進路の意識を高める	【国語】 中：国語便覧を使って「慣用句」「同訓異字」などの習得、作文コンクール参加による文章力の育成。 高：評論文・小説の読解の徹底、小論文の書き方の指導。 【数学】 中：既習事項の定着（問題練習ノートでの繰り返しの学習等)、ＩＣＴ機器の活用（GIGA スクール端末を用いての教材配信､家庭学習への活用)。 高：数学Ⅱに直結する単元の徹底、共通テスト対策の実施。Teams を活用しての家庭学習と授業の連携 【英語】 中：継続的な小テストによる単語力の強化、継続的な英作文指導を行い各地からの定着、既習事項の定着 高：構造をとらえた読解方法の指導、自学自習の習慣の定着 【社会】 中：語句を正確に覚え、書くことが出来る力の育成。副教材を充実させ、より深い理解を促す（視覚資料)。 高：効果的な学習のためのプリントの配布、用語・知識理解の徹底、考えを述べる機会を作る。 【理科】 中：探究意欲を育む、理科全般の学習をし、生活と結びついた実験を取り入れる。 高：探究意欲を育む、実験・観察を盛り込む、基礎の定着、受験に対応できる知識の定着（特に理系） ・夏期講習：中は全９日間、高は２０講座実施 ・高の大学入試問題チャレンジ等は年間２０講座以上	【国語】 中：定期考査８割、学力テスト７割、中３で漢検３級取得を目指す。 高：定期考査７～８割、全統模試の現代文６０～７５％を目指す。 【数学】 中：学力テスト、数量、関数、図形各分野７割を目指す。 高：定期考査７割以上、河合塾全統模試平均以上（理系は６割以上） 【英語】 中：定期考査８割、英検は各級筆記試験８割以上で合格することを目指す。 高：河合模試平均以上、英検２級取得を目指す。 【社会】 中：定期考査７割（記述問題含む)、実力テスト６割 高：定期考査７割（記述問題含む)、模試６割 【理科】 中：定期考査７割、実力テスト６割 高：定期考査７割、模試６割 ・９月と２月に生徒による授業評価アンケートを実施し、教員はアンケート結果から授業改善を図る。	【国語】 ・教材の視覚化の研究、ICT 活用の工夫､受験に対応できる授業の研究。 ・指導教諭の授業見学、予備校での教員研修、校内研究会 【数学】 ・教具の開発・共有、ＩＣＴ機器を利用した教材の開発・共有。 ・受験に対応できる授業の研究 ・関東地区聾教育研究会参加、校内研究会 【英語】 ・教材の視覚化の研究、受験に対応できる授業の研究 ・指導教諭の授業見学、予備校での教員研修、校内研究会 【社会】 ・視覚教材の充実 ・指導教諭の授業見学、予備校での教員研修、校内研究会 【理科】 ・生活に根差し、生徒の興味に沿った教材、授業の進め方。 ・指導教諭の授業見学、予備校での教員研修、校内研究会 ・朝のミニ手話講座 ・週１回の手話講習会（初任者、転任者、希望者対象）	【中】 ・日記指導（家庭生活状況の把握） ・連絡帳（家庭との連携） ・教科懇談会（中のみ、保護者会後実施、５教科） ・職場体験（中１：１日、中２：２日） ・サポートスタディを年間３０回実施 【高】 ・自立活動見学会（４年） ・インターンシップ（高４年：５日） ・大学の授業体験（４、５年） ・進路見学（企業)（５年） ・進路講演会（６年） ・大学生講演会・交流会（年２回） ・大学進学に向けての支援体制の充実 1)情報保障を行っている大学との連携 2)新規に情報保障を行っていただける大学の開拓 3)入学前、入学後のサポート 【中高合同】 ・英、数、国、社、理５教科は週末課題を実施し、家庭学習の充実を図る。 ・理解推進講演会（聴覚障害の理解、保護者対象） ・学校公開 ・自立活動講演会（聴覚障碍者の先輩から学ぶ)
年度末に評価を実施	年度末に評価を実施	年度末に評価を実施	年度末に評価を実施	年度末に評価を実施

関係機関等との連携

〇授業研究連携校

杉並区立向陽中学校、　都立杉並総合高校（夏期講習の見学）

〇その他の関係機関等

河合塾（予備校での教員研修プログラム)、　筑波技術大学（高等部４・５年を対象に出前授業の実施）

〇授業体験をした大学

東京学芸大学、東京農工大学、ルーテル学院大学、昭和女子大学、青山学院大学、立教大学、國學院大學、目白大学、亜細亜大学等